

国際バカロレア

国際バカロレア (International Baccalaureate、IB) は、世界のインターが共通して採用できるカリキュラムとして作られました。次の3つの教育課程に分かれています。

- Primary Years Programme (PYP・6年間)
- Middle Years Programme (MYP・2年間)
- Diploma Programme (DP・2年間)

これらの課程で決められた科目・教科を英語 (フランス語・スペイン語) で履修し、修了試験に合格すると、それぞれの資格が取得できます。

上の課程の中で DP には6つの選択科目・卒業論文・「知識の理論 (Theory of Knowledge)」・教科外活動が含まれ、日本の高校の課程にほぼ等しい内容です。日本語が母語の場合は「日本語クラス」が必修になります。この課程の修了者には IB 課程修了証 (IB Diploma) が授与され、世界中の主要な大学と日本の大学 (約 1/3) の受験資格が与えられます。

最近、日本の私立校で IB の課程を導入する学校が増えてきました。日本の学校卒業資格の同時に取れるのが大きなメリットです。

大学留学を目指して

日本の高校卒業後、欧米の大学へ進学・留学するための指導を高校が多くなってきました。

国際併願

高校卒業後、日本と外国の、どちらでも希望するほうの大学に進学できるよう指導するプログラムを「国際併願」と呼ぶ学校があります。(例：かえつ有明中・高)

これらの学校では、高校の学習科目の他に、統一試験 (SAT・ACT・TOEFL など) の受験準備クラスや、留学時に必要な基礎的学力 (エッセイやプレゼンテーションなど) の特別クラスを提供しています。

韓国の例

韓国では、高校卒業後の海外、特にアメリカの大学への進学がブームになっています。その進学準備のために、中学・高校での学習と並行して、留学の準備のために「英語塾」で学ぶ生徒が多くなります。

「英語塾」では、英語力向上のための勉強だけではなく、アメリカの大学出願のための統一試験の受験勉強も含まれています。SAT の科目試験 (Subject Test) の受験には、アメリカの高校での学習内容が必要なため、それらの学習を英語のテキストを使って勉強しています。

この学校と英語塾の両方の学習をやり遂げて海外の大学留

学の目的を達成するために、小学校からの英語学習や海外の英語学校への短期留学、さらには高校生留学と、子どもと保護者が一体となって取り組んでいます。

日本の高校の今後の課題

韓国の現状を参考にとすると、日本とアメリカ (海外) の大学進学指導を目指す日本の高校の課題が見えてきます。

1、英語力の向上

留学で要求される英語力は、日本の高校生の標準的なレベルではなく、少なくとも現地校 10 年生程度の力です。

アメリカの大学での勉強を考えると「読み書き」、特にエッセイの指導の充実が急務です。英会話力の向上に力を入れている日本のカリキュラムの影響で、「読み書き」レベルの日米の格差が大きくなっています。

2、英語での教科学習

数学・理科・社会などの科目の英語での学習が必要です。統一試験受験の対策だけではなく、英語での学力の基礎となる学習です。ネイティブの先生による授業は「英語」の授業になり勝ちなので、英語の教科書を日本語でしっかり教えらる授業とその先生の確保が課題です。

3、学習・進路指導

高校 3 年生になったの受験勉強だけで、留学は出来ません。少なくとも、高校 3 年間の継続したカリキュラムをベースにしたガイダンス・指導が必要です。英語力・英語での教科学習の 3 年間の積み上げプログラムです。

また、多様性に富んだアメリカの大学システムを理解した進路指導のカウンセラーの確保と、生徒へのガイダンスの充実も重要です。大学留学を生徒にとって意義深いものにするためには、学習指導・進路指導に加えて、社会変化を捉えた将来の展望を生徒に考えさせる指導も必要です。生徒を一人の人間として育てていけるカウンセラーが理想です。

わが子のニーズは？

日本の学校での英語教育について、簡単に紹介しました。日本の英語・国際ブームは続いており、学校での英語教育も質量ともに、大きく変わりつつあります。

しかし、アメリカで英語や海外体験を身につけた皆さんのお子さんの、レベルに合った、将来のニーズを満たしてくれる英語教育を探し出すには、努力が必要です。学校以外の英語学習のチョイスも可能です。

どちらにしても、海外で苦勞して身につけた英語力と英語での学力を、将来の財産になるように伸ばしてあげてください。